

水稻除草剤の上手な使い方

まず、はじめに・・・

除草剤を**上手**に使うためには？

① 圃場の状態を知る

－雑草の種類

－水の状態

⇒除草剤を効かせる為の水管理

② 使っている除草剤の特徴を知る

③ 必要に応じて体系処理

① 圃場の状態を知るー雑草の種類

こんな雑草に困っていませんか？



ノビエ



アゼナ類



ホタルイ



コナギ

➡ 上記雑草は除草剤の選択・使い方で対応可能

① 圃場の状態を知る—雑草の種類2

ノビエ
他一年生雑草



使用時期は適切ですか？
水管理(湛水期間)は適切ですか？
体系処理はしていますか？

ホタルイ
アゼナ類
コナギ

SU抵抗性？



SU抵抗性対策剤を使っていますか？

① 圃場の状態を知る一水の状態

水持に対する
剤型別許容度

粒剤 > ジャンボ = フロアブル

ただし散布の
手間は...

ジャンボ = フロアブル > 粒剤

(好みの問題もありますが)

除草剤の上手な使い方

- 除草剤の層のでき方（除草剤の剤型による違い）
 - **粒剤** → 底の方で早く拡散 → 土に吸着 → 薬の層完成
 - **ジャンボ・フロアブル** → 水に拡散 → 水田全体に拡散
→ 徐々に土に吸着 → 薬の層完成

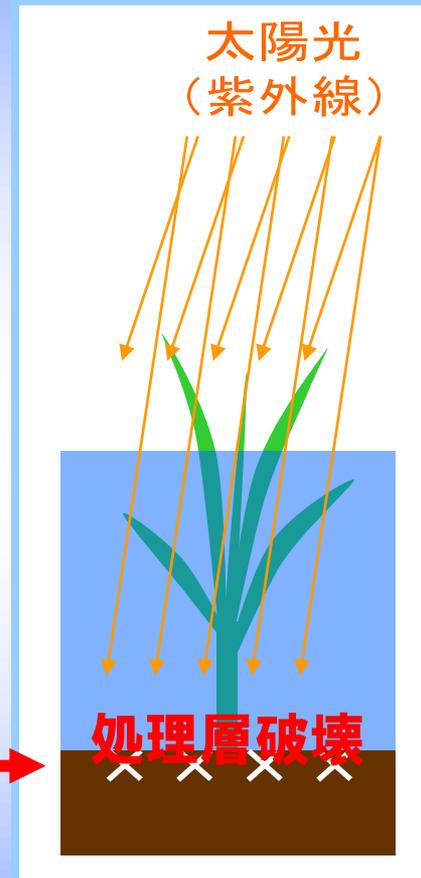
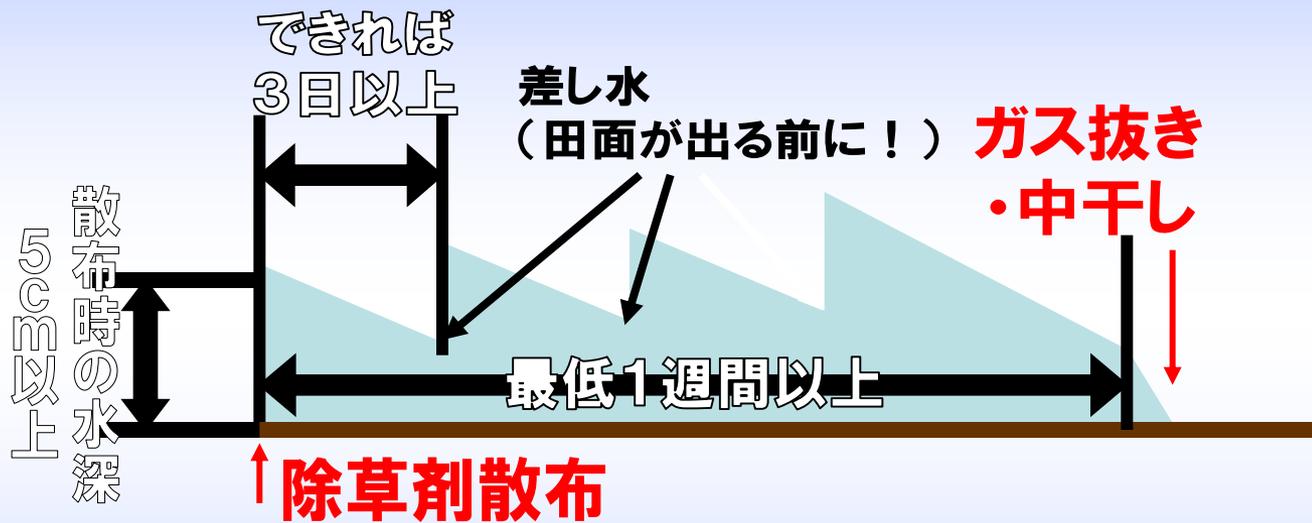
* 成分の拡散距離が長い分、ジャンボ・フロアブル剤の方が時間がかかる。
→ 湛水キープは粒剤より深めに、長く

除草剤を効かせる為の 水管理

1. 除草剤散布時は出来る限りの深水で！
2. 散布後の湛水状態を出来る限り長く！
(雑草が成分を吸収するための期間を作る)

除草剤散布後の理想的水管理

◎ Good！な例(モデルケース)



[×してはいけないこと]

- ① 散布時の水深が浅い(効果不良・薬害)
- ② 成分が安定する(土壌吸着)する前に落水(効果不良)
- ③ 雑草に効果が出る前に田面を出す(処理層の破壊)

除草剤の上手な使い方

- 除草剤の層をきっちり作る

除草剤は拡散した後に水田土壌の表面に層を作る

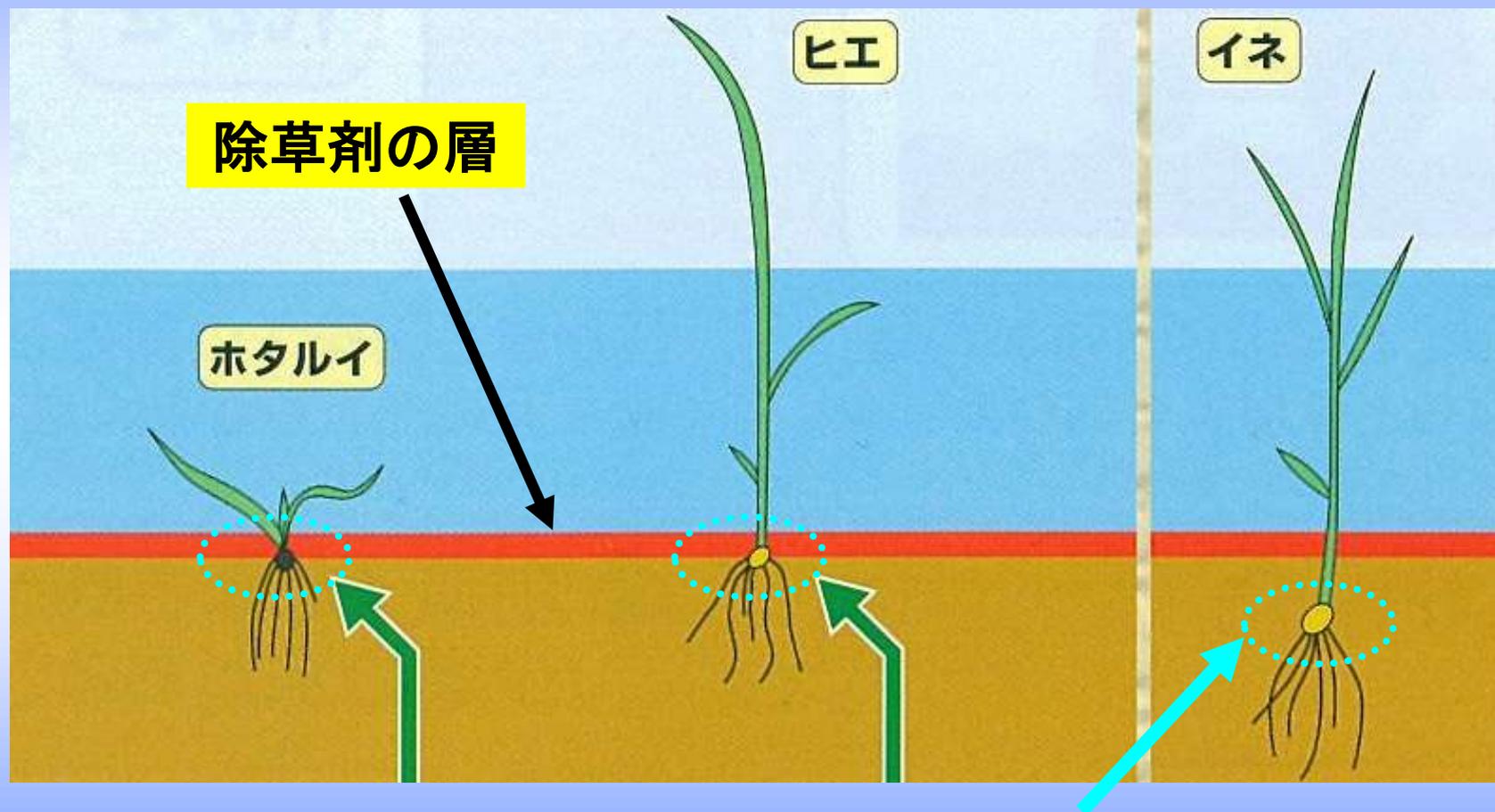
→ **水面より上に露出したところには薬の層はない**

→ **水が抜ける水田は薬も抜けてしまう。**

代かき、畦作りはしっかりと

除草剤の上手な使い方

- 効果と薬害の原理

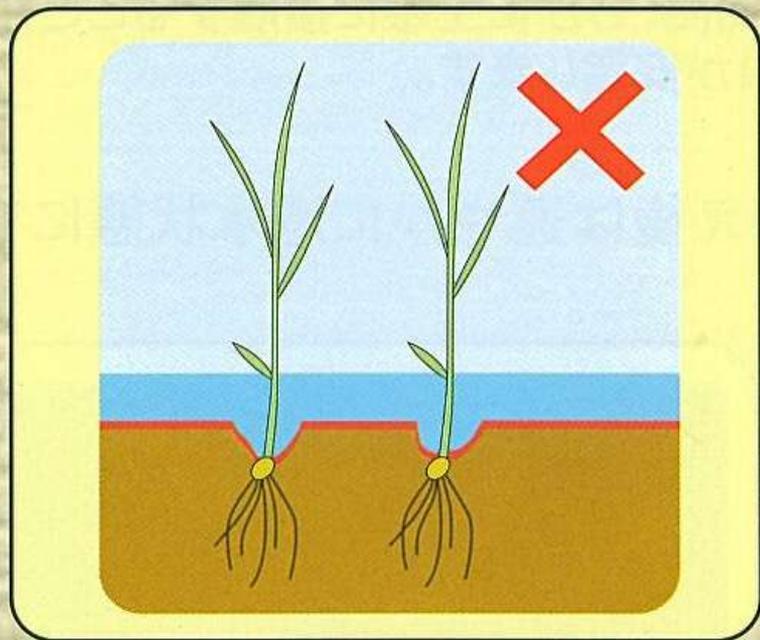


雑草の生長点や茎の基部は薬層に触れるが
移植したイネは触れない

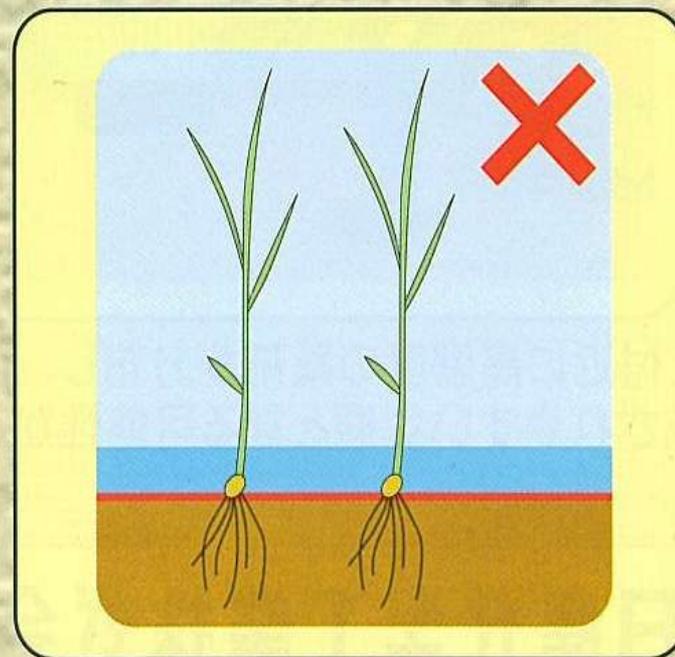
除草剤の上手な使い方

薬害の原因 — 基本1

1 植え穴のもどりが悪い水田



2 浅植えの水田

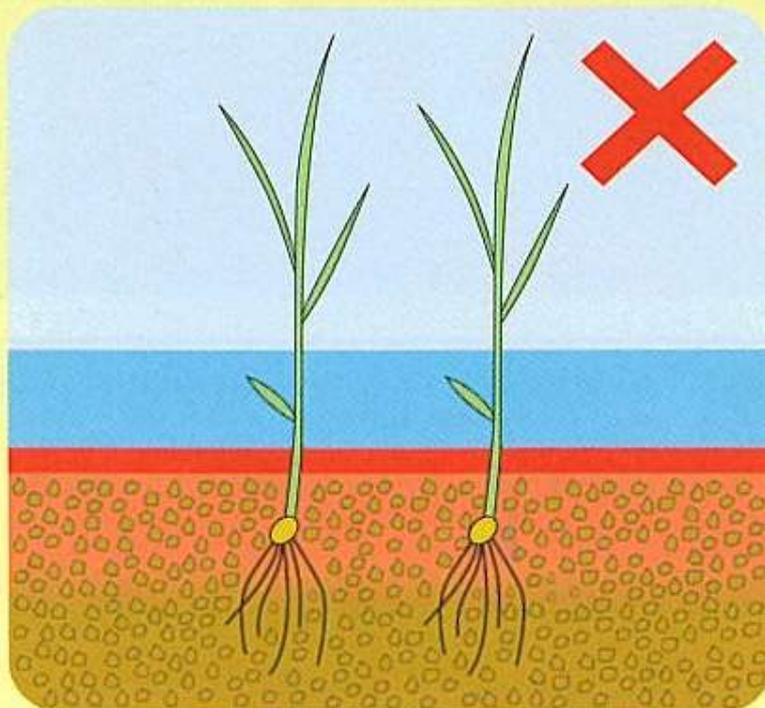


薬の層に稲の生長点や茎の基部、根が触れてしまう。

除草剤の上手な使い方

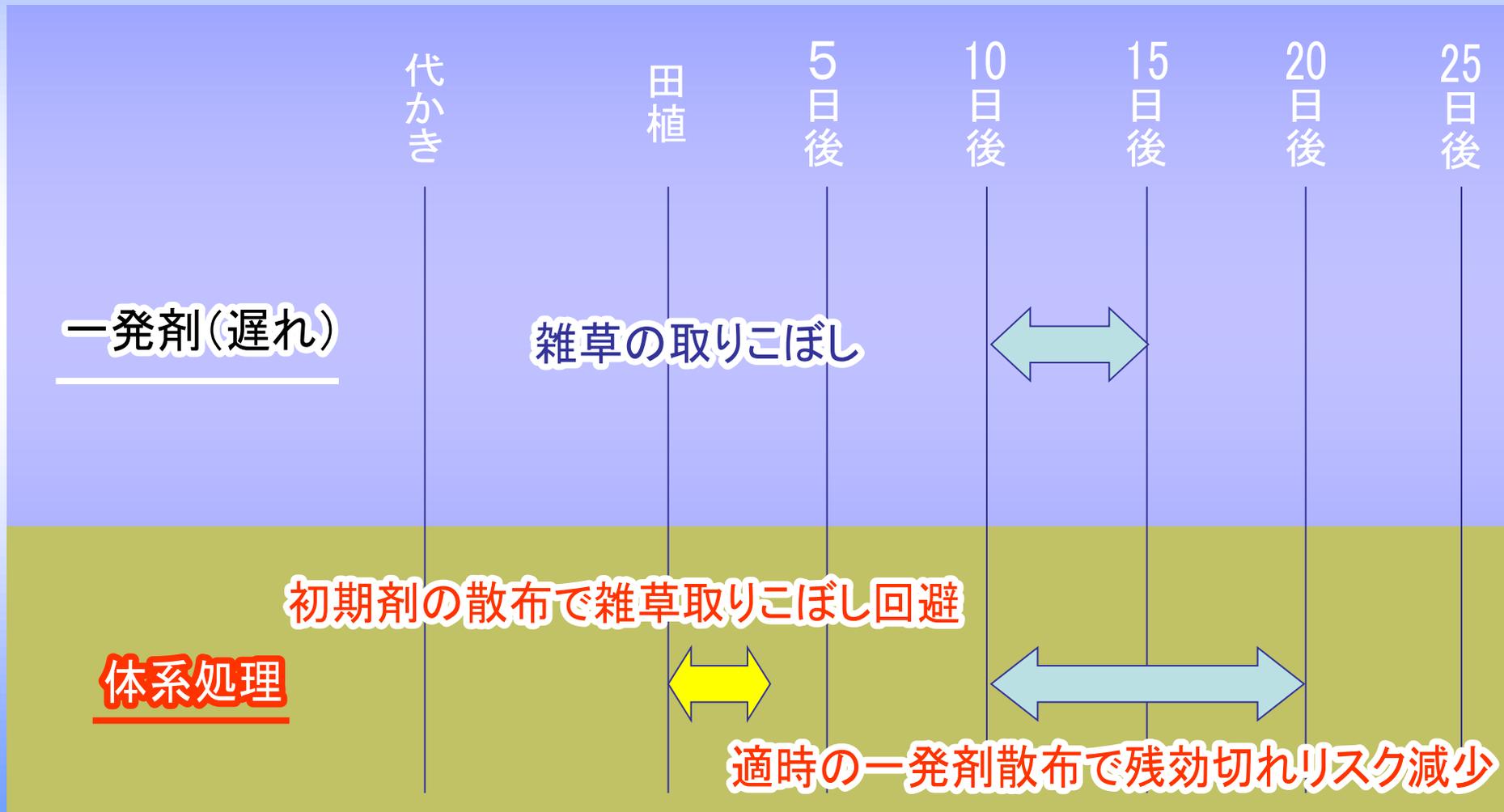
薬害の原因 ー 基本2

3 砂質土壌など水持ちの悪い水田

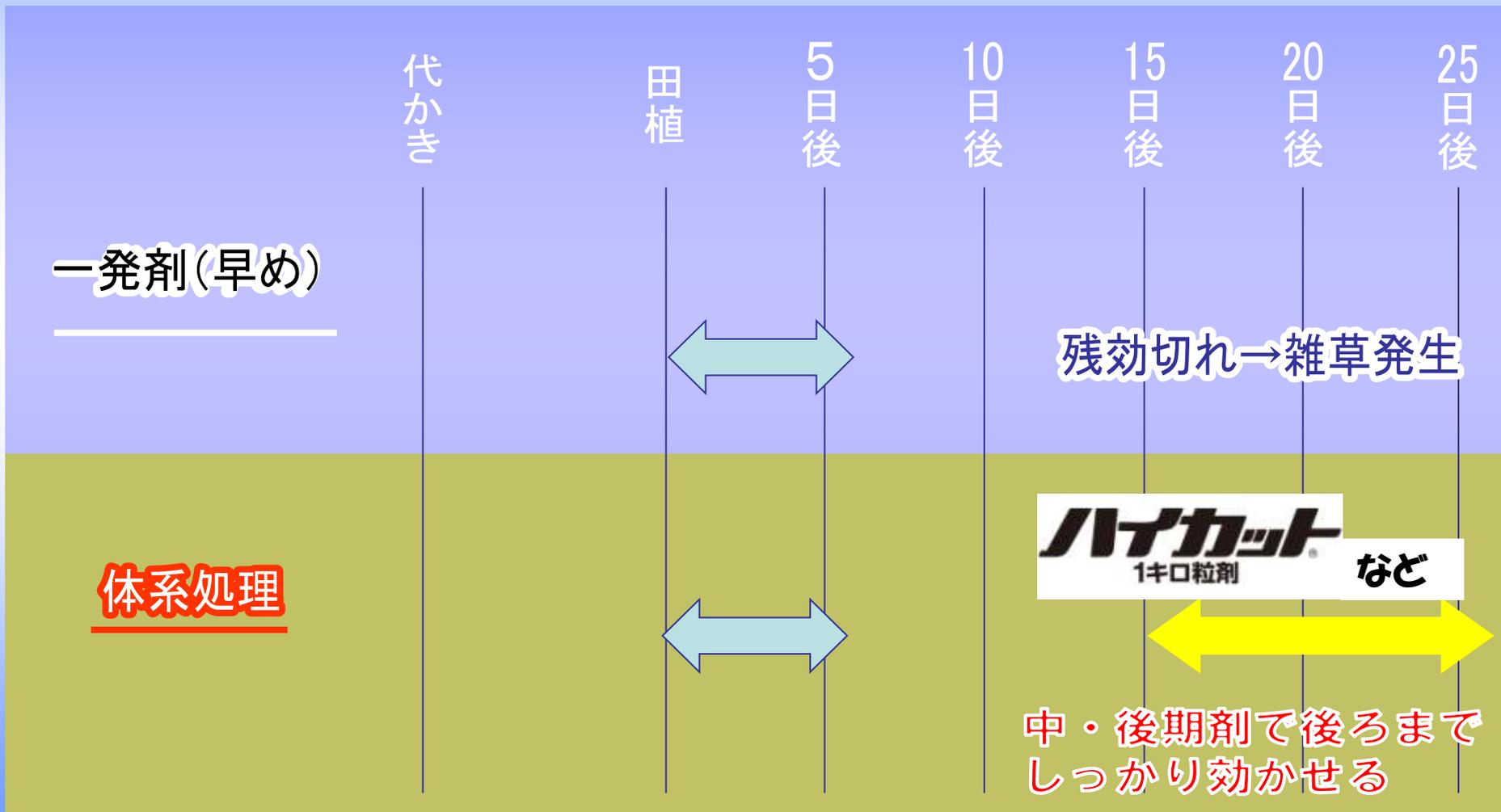


薬の層が広がり、稲の生長点や茎の基部、根が触れてしまう。

雑草防除は体系処理が基本1



雑草防除は体系処理が基本2





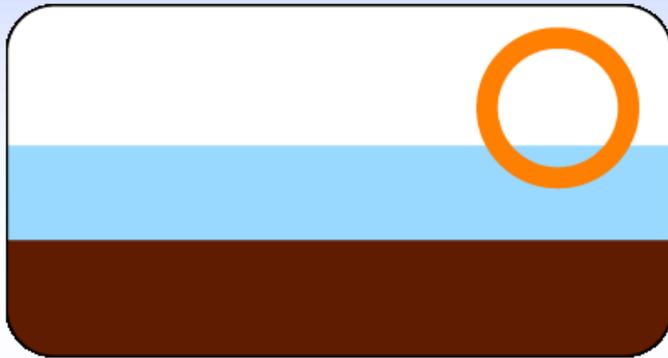
ダブルスター®

ジャンボ®

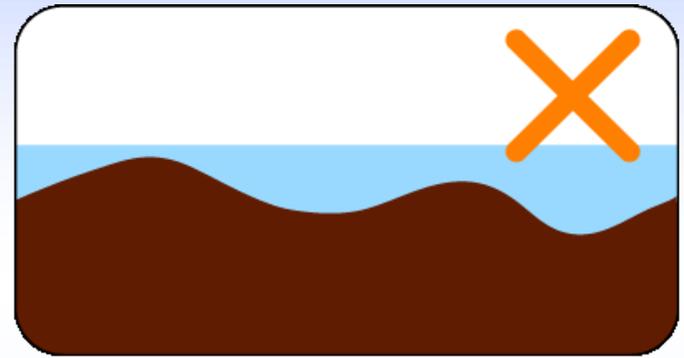
上手な使い方



代かきはていねいに行い、凹凸が少ない田面にして下さい。



凹凸が少ない田面



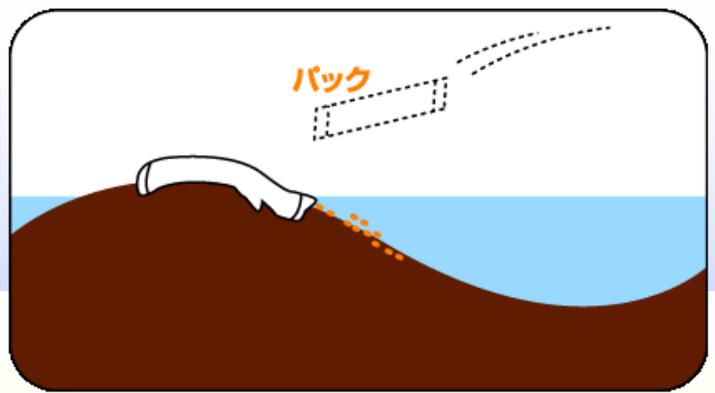
凹凸が多い田面

- 稲の植付け姿勢が悪くなります。
- 浅植、深植になります。（生育ムラ）
- 除草剤の効果がフレます。
- 雑草の極部発生になります。

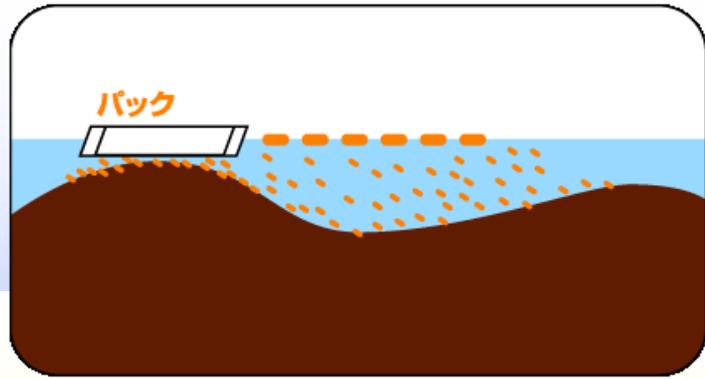


均平でない田面の場合次のようなことがあります。

1. 水のないところでは薬剤が拡がりません。

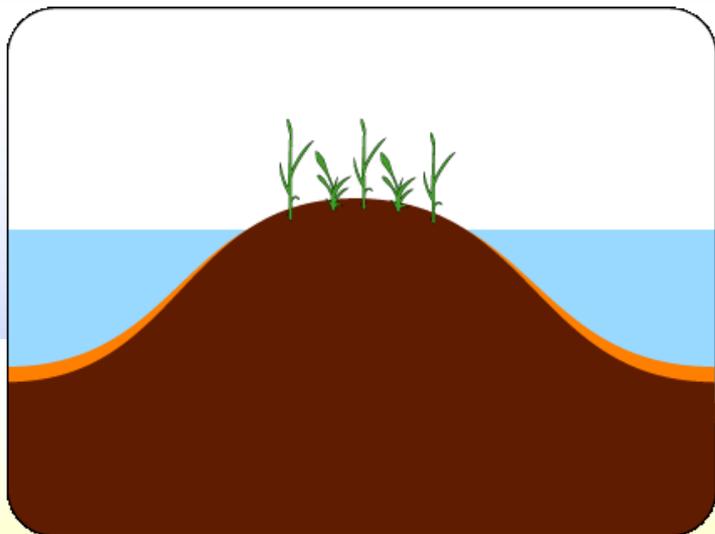


2. 薬剤は、水との接触面から粒が拡散しますのでバック下に水深が無いとうまく拡がりません。

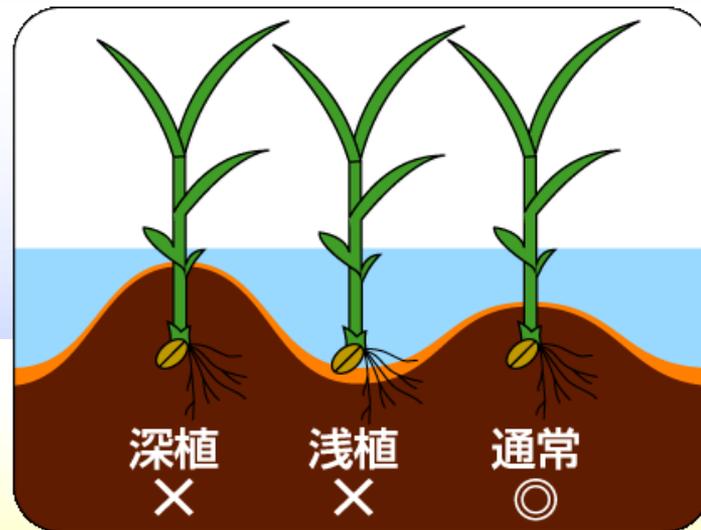


均平でない田面の場合次のようなことがあります。

3. 処理層ができず雑草が極部的に発生します。



4. 浅植・深植になりやすく薬害発生をまねきます。



処理時期が遅れると雑草の生育がすすんだり、藻類が増えるので、ジャンボ剤の処理には適しません。

処理時期が遅れると



不適

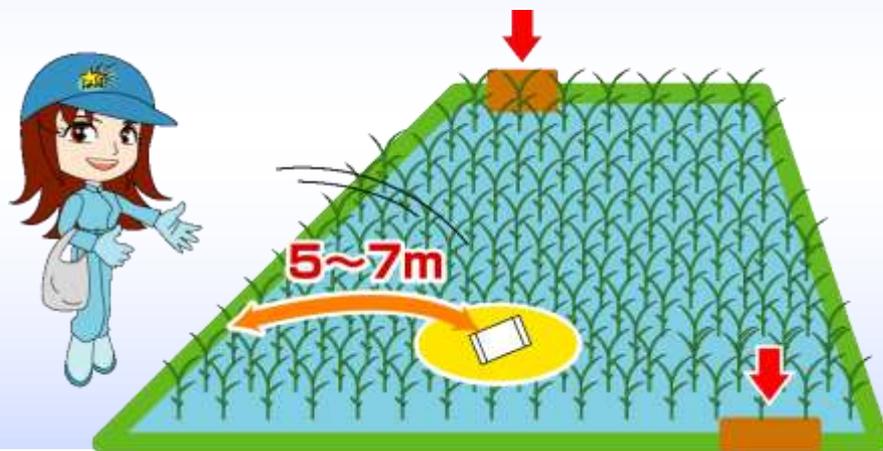
湛水深を保つ

3~5cm程度の湛水状態で、
水の出入りを止めて散布して
ください。



作業はカンタン

畦を歩きながら下手投げで
軽く投げ込みましょう



散布前に必ず水尻
を止めて下さい。

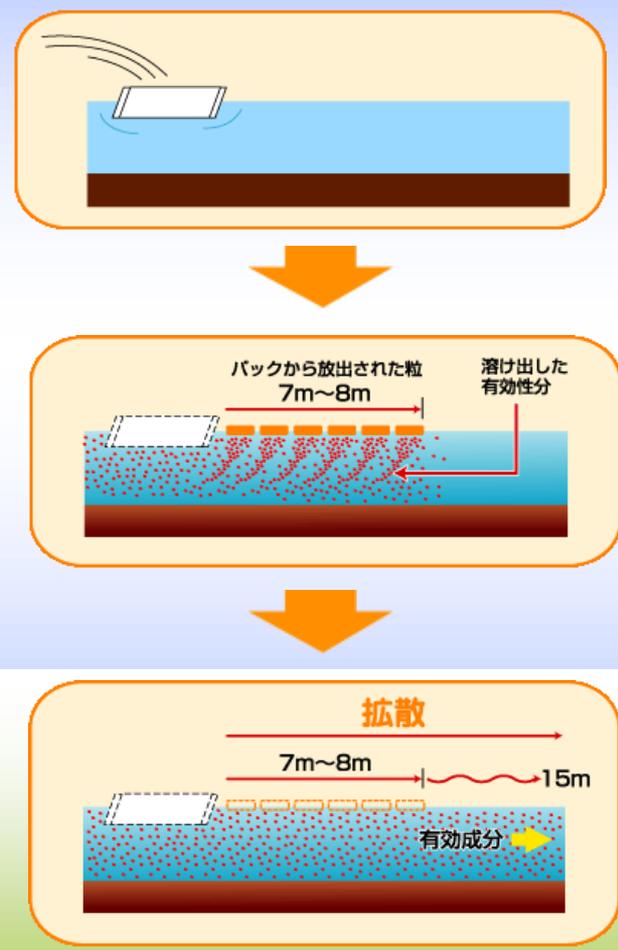


バックから溶け出した粒は7~8m広がり、有効成分は少なくとも15m拡散します。

等間隔で投げ込みましょう

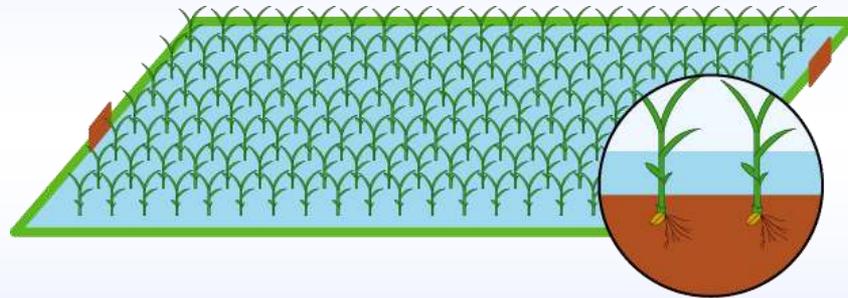
30m

- ・10a圃場の場合:8~10m間隔を目安として下さい。
- ・30a圃場の場合:6~7m間隔を目安として下さい。

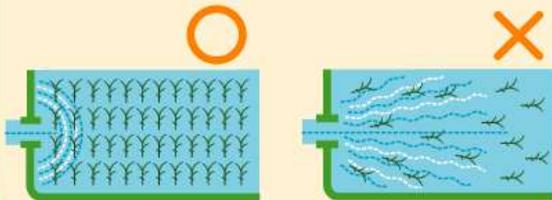


水深を保つために

散布後は水の出入りを止め、少なくとも7日間は通常の水深を保ち、田面を露出させないようにしてください。



水尻を止めて処理層を壊さないように
静かに差し水して下さい。

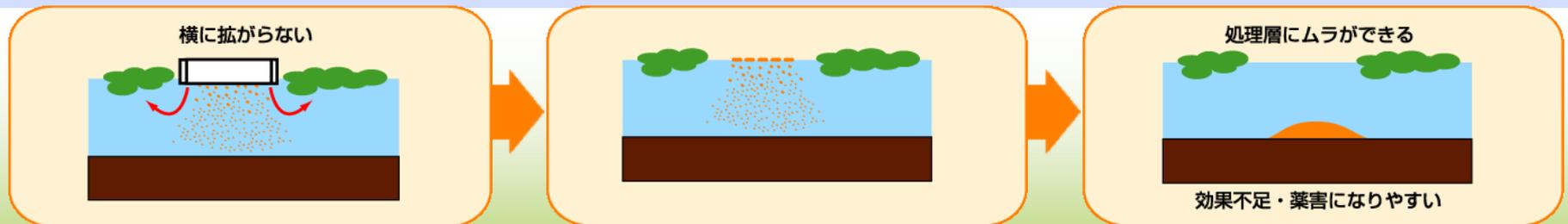
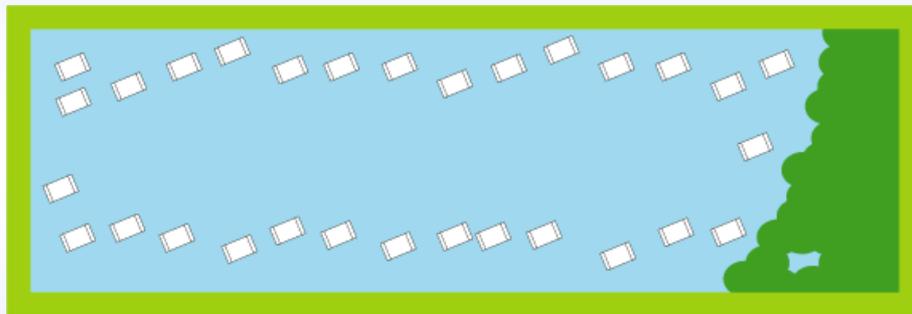


水深が浅くなった
時はすぐに静かに
差し水！



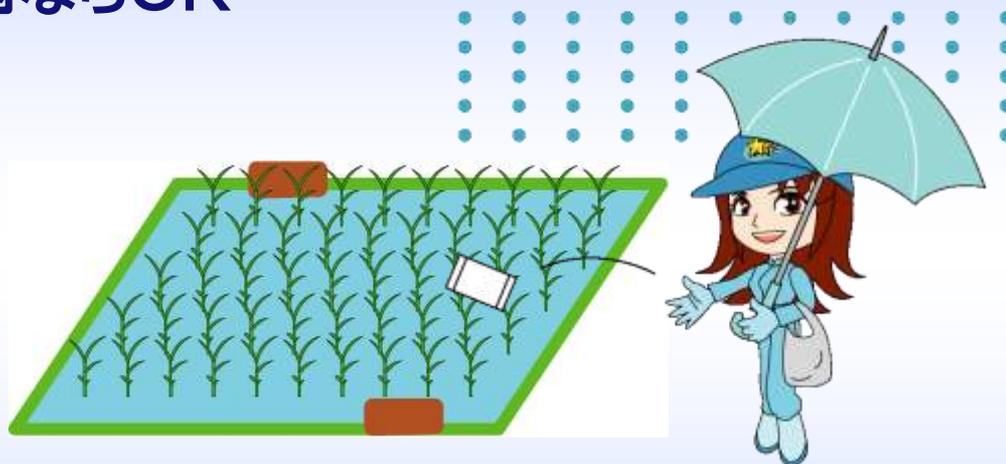
藻・表層剥離・稲わら

発生状況もよりますが、めやすとして藻・表層剥離・稲わら等が水田面積の30%以下の場合、藻の発生していないところでその水田に処理するジャンボ剤の全量を散布して下さい。



Q.雨の日に使えますか？

A.小雨ならOK



パックを雨で濡らしたり、濡れた手で触らないで下さい。

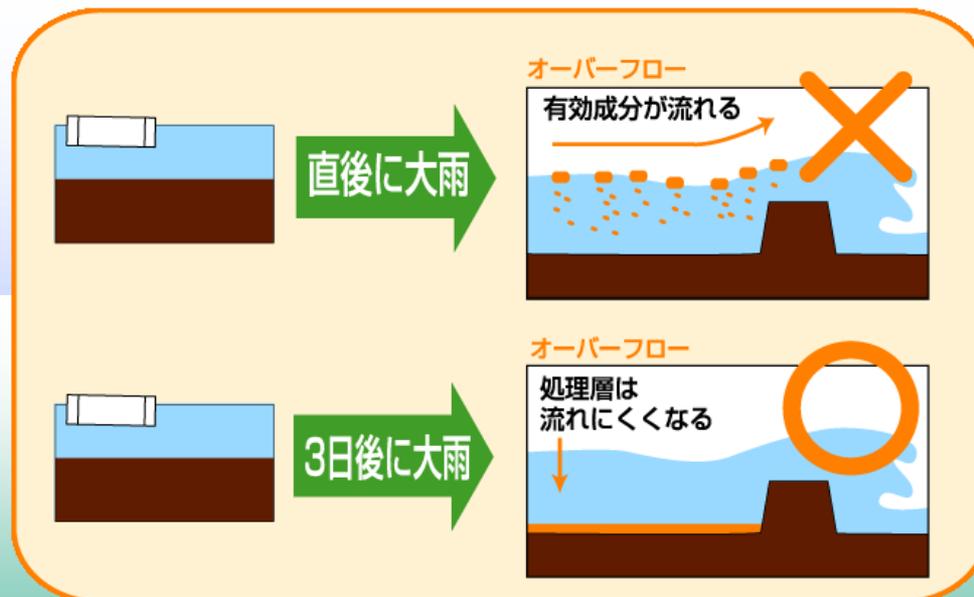
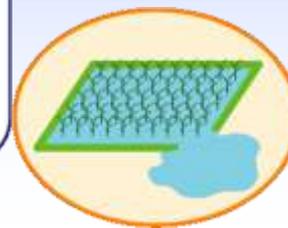


Q.雨の日に使えますか？

A.小雨ならOK



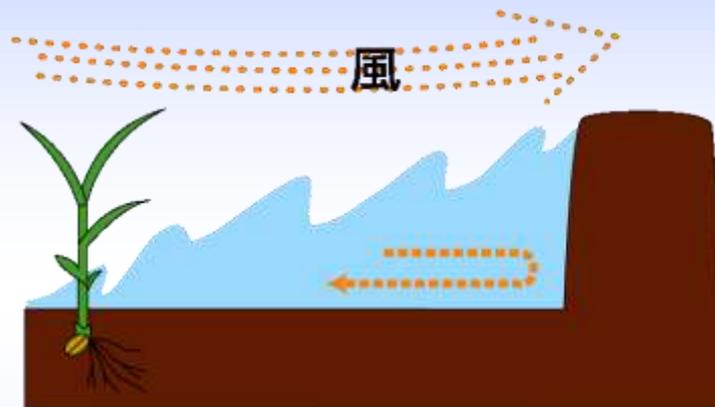
散布直後の大雨には注意して下さい。水田の水が流れ出てしまうと成分も一緒に流されてしまいます。



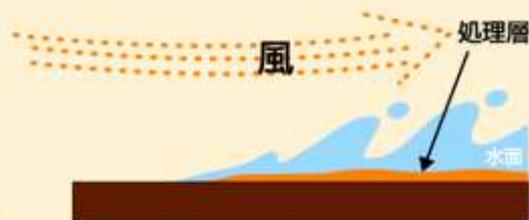
Q.風の強い日に使えますか？

A.多少の風(約5m/秒)ならOK

田面が露出しなければ水面は風下方向に流れても、水中では反対方向(風上方向)へ流れるので、うまく拡散します。

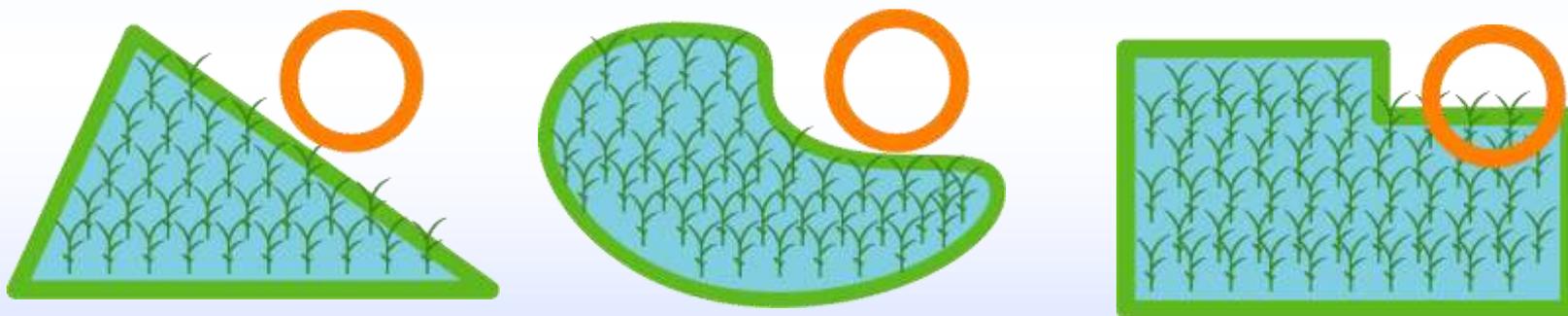


成分は水に乗って拡散するので、水の無い部分ができると、処理層も作られません。



Q.不定形の田んぼでも使えますか？

A.どんなに不定形の田んぼでも使えます。

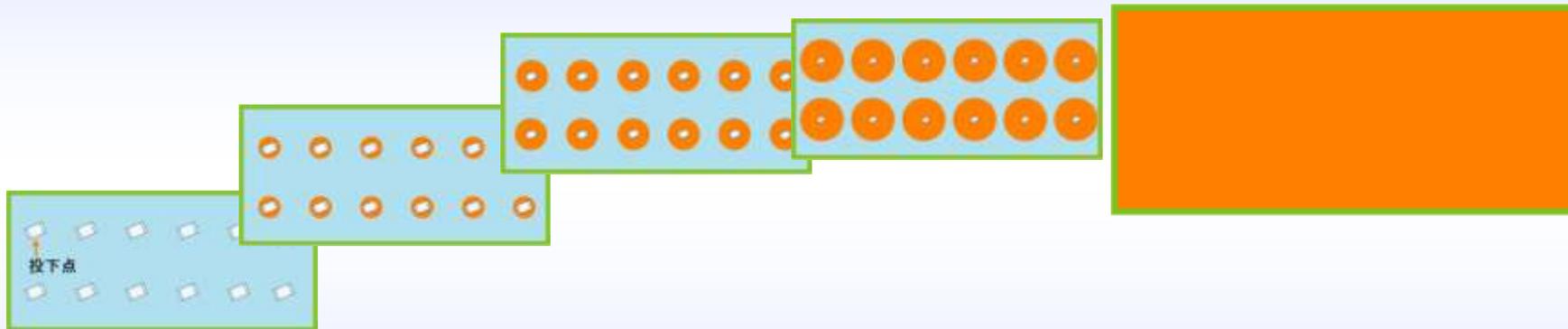


優れた自己拡散性を備えていますので、速くムラなく拡散します。
不定形な田んぼでも使用できます。

Q.全体に拡散するまでどのくらいかかりますか？

A.処理後1日(24時間)で全面に拡散し、どの地点の水をとってもほぼ均一の成分濃度になります。

田面水中の拡散イメージ図



水中濃度イメージグラフ

